

# 特集

## ともに働きともに子育て

少子高齢化、国際化、IT化など社会経済情勢が急速に変化する中で、活力ある地域社会を築くため、「男は仕事、女は家事」といった固定的な性別役割分担意識や形態を見直し、男性も女性もお互いを認め合い、責任も分かち合う男女共同参画社会の実現が重要です。子育て真っ最中の2組のご夫婦にインタビューしました。



菅野 隼人さん(24歳)  
佳奈さん(25歳)  
瑠星くん(1歳)  
猪川町 在住  
夫の隼人さんは介護士とし

て松原苑に勤務、妻の佳奈さんは看護師として県立大船渡病院に勤務。1歳の瑠星くんと3人家族です。

「共働きをしながらの子育てを、どのようにしていますか。」

○妻 今までは育児休業中だったので、私と子どもと一緒にいることができましたが、11月から職場復帰しますので、これから大変だと思えます。幸い、勤務先の病院に保育所(ドレミ保育所)があるので、利用します。当面、夜勤はないと思いますが、将来、夫と夜勤が重なったときは、ドレミ保育所の夜間保育を利用するつもりです。

○夫 私たちの親はそれぞれ仕事を持っているので、以前から子どもは保育所に預けるしかないと考えていました。そのため、子どもが、できるだけ他人になじめるようにと考え、つどいの広場(YSセンター)内 子育て支援施設をよく利用しています。

○妻 子どもと2人きりで家で過ごしていると、体力的にというよりも精神的に疲れまます。そんな時も、つどいの広場にくるとリフレッシュできます。

「家事の役割分担はどのようにしていますか。」

○夫 介護の仕事をしているので、子どもの世話は苦になりません。お風呂は自分の役目です。ミルクを与えるのも、



おむつ替えも何でもやります。また、まもなく妻が職場復帰するので、最近料理の練習もしています。

○妻 (産休の)今は、私がか家事をすることが多いですが、やはり夫が家でも子どもの面倒をみてくれると気持ちに余裕ができます。私が職場復帰したら、今まで以上に協力して子育てします。

「子どもさんをどのように育てたいですか。」

○夫妻 優しくて明るい、思いやりのある人になって欲しいです。子どもは3人欲しいです。兄弟姉妹でにぎやかな中で育てていきたいです。

### Q 女性の社会進出が進むと、出生率は下がるのか？！

OECD(※1)24カ国のデータによると、2000年時点では、女性の労働力率(※2)が高い国ほど合計特殊出生率(※3)が高い傾向が見られます。アメリカ合衆国、オランダ、ノルウェーなど、この20年間に女性労働力率を上昇させながら出生率も回復してきている国では、●男性を含めた働き方の見直しが進んでいる●保育所整備等の両立支援策などが充実している●男性の家事・育児への参加が進むなど性別による固定的役割分担が見直されている●男女の雇用機会の均等が進んでいるなどの特徴があり、男女共同参画の推進が少子化対策にも資すると考えられています。

※1 OECD：経済協力開発機構のことで、ヨーロッパ諸国を中心に日・米を含め現在30カ国の先進国が加盟する国際機関  
※2 労働力率：労働人口(日本では15歳以上)に対する人口の比率 ※3 合計特殊出生率：一人の女性が一生に産む子供の数